

2025年度 事業報告書

特定非営利活動法人 フレンズ・ウィズアウト・ア・ボーダーJAPAN

1 事業の成果

ラオ・フレンズ小児病院（LFHC）は設立10周年の大きな節目を迎えた。これまで30万人以上の子ども達に無料で質の高い医療を提供し、ラオスの北部地域にとって欠かせない医療機関へと成長することができた。2025年は麻疹の大流行があり、長期間にわたって対応に追われる日々が続いた。1,200件以上の症例と4人の死亡が報告されるなど大きな試練にも直面したが、スタッフの献身により危機は収束に向かっている。新たな取り組みとしては、国際ボランティアの支援を受けながら専門診療（小児整形外科・眼科手術）を開始。耳鼻咽喉科分野においては専門チームとの連携も開始した。医療人材育成には継続して取り組んでいる。

日本とラオス双方で大きなトピックとなったのは、愛子内親王殿下のLFHC訪問である。皇族の公式訪問先に選ばれたことはたいへん栄誉なことであり、加えて、現地スタッフの士気を高めることや、日本での支援者開拓にも繋がった。LFHCは「すべての患者を自分の子どものように治療する」という理念のもと、現地化に向け、着実に歩みを進めている。

【医療】

■外来病棟

- ・患者数が前年比15%増加したが、昨年見直した新たな患者フロー体制と、救急部門との連携強化により、医療の質を維持しながら効率的に対応することができた。
- ・ネフローゼ症候群やてんかん、整形外科などの専門外来を設置し、慢性疾患や複雑な症例への継続的ケアを強化した。
- ・重度の遺伝性血液疾患の子ども581名に対し2,610回の輸血を実施するなど、専門的かつ思いやりのある医療を提供した。

■入院病棟

- ・入院患者数は引き続き増加。昨年の過去最高2,972人を大幅に上回る3,639人だった。麻疹流行への対応もあり大きな負担がかかった1年だったが、それが改めて互いに思いやり、チーム力を強化する機会にもなった。
- ・感染予防・管理（IPC）の強化、臨床記録の改善、限られた資源の効率的運用に重点を置いて取り組むことができた。

■集中治療室（ICU）

- ・年間284件の入院のうち、88人が人工呼吸器、97人が高流量酸素やCPAPによる治療で、症例の重症度の高さがうかがえた。

- ・国際的な医療専門家の支援を受け、スタッフの技術向上や臨床判断力の強化を進めた。10月には専門の知識と経験を持つ8人からなる専任ICU看護チームを設立した。
- ・データを活用したQuality Improvement (QI) プロジェクトや臨床ガイドラインの策定・更新により、予防戦略や急性期治療の改善に取り組んだ。

■手術室

- ・過去最多レベルの手術件数と国際医療ミッション受け入れにより、大きく成長した1年となった。新技術の習得や部署間連携の強化、術前・術後ケアの改善を通じて、高い医療水準と患者安全を維持できた。特に、外科医の直接介入なしで多くの小手術（熱傷処置、膿瘍切開排膿、Kワイヤー抜去、舌小帯短縮症の処置、小嚢胞切除、複雑な創部処置など）を実施できるようになるなど、チームの自立性と臨床能力が向上し、待機時間の短縮と迅速な治療提供につながった。
- ・海外医療チームとの連携により、口唇口蓋裂手術、熱傷拘縮手術、整形外科手術、小児眼科手術などが実施され、多くの子どもたちの生活の質を大きく改善することができた。
- ・麻酔分野でも研修やワークショップを通じて人材育成が進み、スタッフの専門性と地域医療基盤が強化された。

■新生児集中治療室 (NICU)

- ・エビデンスに基づく家族中心ケアを推進し、新生児医療の質向上に大きく貢献した。
- ・カンガルー母子ケアや母乳育児支援の強化、麻疹流行への迅速対応などを通じて、高い専門性とチームワークを発揮した。
- ・国内外での研修や学会参加、他医療機関との連携を通じてスタッフの能力向上と知識共有を進め、ラオス全体の新生児医療の発展にも寄与した。

■救急

- ・患者数増加と麻疹流行の影響により多忙で厳しい1年だったが、重症例や複雑な症例が増える中でも質の高い救急医療を維持できた。
- ・トリアージ体制の強化や入院病棟・手術室との連携改善により、迅速な救命対応を行うことができた。
- ・定期的な研修やシミュレーションを通じて臨床能力を向上させ、感染対策も徹底した。

■放射線・画像診断部

- ・医療機器などを主力とする総合電機メーカーPhilips（本社オランダ）より超音波装置や携帯型装置の寄贈があり、診断能力が向上した。また、RAD-AID International や Philips から年間を通じて10人以上の放射線ボランティアが来院。超音波、X線、CTの技術指導が行われ、安全かつ効果的な運用が可能になった。

■臨床検査部

- ・新しい電解質分析装置の導入により、重症患者への迅速・正確な検査が可能になった。

- ・国の外部評価プログラムやタイでの地域ワークショップに参加し、血液ガス管理や貧血ガイドライン、検査リスク管理、臨床チームとの連携改善を学んだ他、寄付型母乳バンク支援や実地研修を通じて、チームの技術力向上も進められた。
- ・リーダーシップ研修の修了や麻疹流行時の対応レビューへの参加を通じて、チームのリーダーシップ能力とアウトブレイク対応力が強化された。

■障がい児クリニック

- ・座位補助具や耐久性補助具の提供、言語療法などによりサービスや支援の幅を広げることができた。
- ・国内外のワークショップやリモート研修でスタッフの専門性を強化。地域主導の持続可能なリハビリ基盤を確立した。

【教育】

■院内教育

- ・多職種による定期教育、症例検討、ジャーナルクラブを通じて臨床能力とチームワークを向上させることができた。
- ・ジュニアドクター向けの1年間のファウンデーションコースや看護師向け ETAT・NRP 研修により、専門能力を強化した。
- ・リーダー及びマネージャー向けのリーダーシップ研修に 58 人が参加した。

■外部教育

- ・郡病院で様々な研修を行い、小児医療に関わる知識や技術、感染予防、記録管理などの向上を推進した。
- ・急性栄養不良統合管理の研修を複数の州で行った。
- ・研修医・医学生・看護学生・助産師の臨床実習を受け入れた。

■英語プログラム

- ・一般英語、医療英語、部署別クラス、個別指導など 4,000 時間を超える英語プログラムが実施された。

【予防】

■アウトリーチ（訪問看護）

- ・病院外でも子どもと家族に医療・心理・生活支援を提供し、安心と希望を届けることができた。
- ・健康教育 1,139 回、家族カウンセリング 561 回、経済状況アセスメント 416 件、訪問看護事前アセスメント 67 件に対応。虐待、終末期ケア、死亡後ケアの対応にもあたった。フォローアップ電話 1,418 件を実施。
- ・海外からの手術支援を受ける際には、手術前後のスケジュール調整と準備の対応にあたった。心臓手術 13 件、口唇・口蓋裂手術 42 件、形成外科 25 件、眼科手術 25 件。

- ・ HIV カウンセリング、障がいケア、院内リーダーシップ研修など、様々な研修を通してスタッフのスキルとレジリエンスを強化した。

■予防プログラム

- ・ 生後 1,000 日までを重点的に取り組む栄養プログラムは、完全母乳率 82%を達成した他、家庭での食事の多様性でも成果が見られた。
- ・ 村での成長モニタリング率は、10%未満だったものが 75%以上にまで向上した。これにより、急性栄養失調の発生を大幅に減少させることができた。
- ・ 現金給付と電子データ管理を行うことで、治療アクセスや計画策定が改善できた。これにより活動地域が拡大し、地域における栄養改善の基盤整備にも繋がった。

■助成事業

カンボジア（シェムリアップ）にある「アンコール小児病院（AHC）」の医療教育活動及び地域医療支援教育活動への助成支援を行った。

【医療教育活動】

- ・ 99 人の医療インターンが AHC の病棟ローテーションを終えた。
- ・ 349 人の看護学生が AHC での臨床研修を受けた。
- ・ 中堅医師 6 人が AHC で 1 年間の研究奨学生資格を獲得した。
- ・ 病院スタッフおよび外部医療従事者 345 人が AHC のワークショップに参加した。

【地域医療支援教育活動】

- ・ 農村地域部における子どもたちの健康改善のため、小学校教員及び保健センタースタッフに対する研修、子どもたちの栄養不良のスクリーニング、基礎衛生教育を提供。
- ・ 519 人の小学生が歯科治療を受けた。
- ・ 3,196 人の子どもたちが栄養失調の健康診断を受けた。
- ・ 144 人の小学校教師が基礎医療の訓練を受けた。
- ・ 5,778 人の小学生に眼科の学習を行った。
- ・ 4,148 人の村人が栄養教育を受け、栄養改善のためのクッキングデモンストレーションに参加した。
- ・ 278 人の学校教諭が応急手当、基礎医療、水の衛生と手洗いの研修・訓練を受けた。

■日本国内

WEB サイトや SNS 等を通じた広報活動、支援者及び関係者への活動進捗報告（代表の訪問対応含む）、イベント開催/参加、クラウドファンディング実施等を通し、団体の認知度/知名度向上及び資金調達に努めた。

【広報活動】 SNS は特にインスタグラムの投稿デザインを見やすさと伝えやすさを重点に置き一新した。

【活動進捗報告】 ラオスとカンボジアから届くレポートを随時確認し、定期的な翻訳作業及び投稿頻度の調整を行うなどし、対応に努めた。クラウドファンディング実施時には、活動レポートとして現地の様子や患者さんストーリー等を配信し、現場で起こっていることを伝えることに努めた。

【イベント】 地域イベント/ラオスフェスティバル参加、チャリティーウォーク、チャリティーイベントの実施。

地方でのイベントも開催し、新規支援者確保及び団体の活動をより多くの人に知ってもらう機会に繋げた。

【資金調達】寄付キャンペーン及びクラウドファンディング、助成金申請を行い、クラウドファンディングに関してはこれまでで最高額の資金を集めることができた。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【124,147】千円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(千円)
助成事業	アジアの恵まれない子供たちの医療支援を目的とする団体へ助成を行う。	通年	アンコール小児病院	390名	1)カンボジア人医療従事者 2)カンボジアの子供、教師や地域住民	1) 医療従事者1千名以上 2) 不特定多数	29,591
医療施設運営・教育・予防事業	「ラオ・フレンズ小児病院(LFHC)」の運営、医療・教育・予防事業を行う。	通年	ラオ・フレンズ小児病院	200名	1)ルアンパバーン地区の子供 2)LFHCスタッフ、他医療施設スタッフ及び患者家族	1) 患者数：のべ4万人以上 2) LFHCスタッフ約200名+地域医療従事者不特定多数	70,727
スタッフ派遣事業	専門家を派遣し、スタッフや住民へ医療・予防教育等を行う。	通年	ラオス、カンボジア	1名	現地スタッフ及び地域住民	スタッフ約200名、不特定多数の住民	976
医療物資等運搬事業	病院のために寄贈された物品や備品等の輸送手配や、運搬を行う。	通年	法人事務所、他	5名	医療従事者及び患者	不特定多数	2
普及啓発事業	WEBサイトやリーフレット、年次報告書の活用、イベント等で広報に努める。	通年	法人事務所、他	5名	寄付者及び参加希望者	不特定多数	22,851